

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401012		
法人名	社会福祉法人 幸和会		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町牛口名373番地2		
自己評価作成日	令和元 年11 月25 日	評価結果市町村受理日	令和2年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安藤病院の敷地に隣接しているため、急変時や事故発生時に早急な対応ができるので、ご家族様にも安心してもらえる。食事面では、栄養士による献立で、毎日職員の手作りを提供している。行事食や誕生日には本人が好きな食べ物を提供している。リビングのガラス窓が大きいので、そこから外の景色が良く見える。(四季の移り変わりが感じられる。田植え・稲刈りなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは町の中心部に位置する周囲に田畑が多い環境にあり、田植えや稲刈り、野菜づくりなど四季の移ろいや昔を懐かしむことができる環境となっている。また、母体である医療機関が併設していることもあり、入居者の体調不良や急変時にも迅速に対応することが可能であるため、入居者及び家族にとっての安心感にも繋がっている。職員は入居者に食事を通して季節を感じてもらえるよう行事に合わせておはぎやおせちづくりを一緒に行うなど、入居者の喜びに繋がられるよう工夫しており、管理者も入居者本位のケアが実現できるよう職員にとって働きやすい職場環境づくりに努めている。昨年度は人手が不足していることから各種研修会への参加やホームが理想とする支援が実現できない部分もあったが、今年度2名の入職があったことでより多くの研修に参加することが可能となり、職員のスキルアップへの環境が整った。入居者が自分らしく安心して生活できるケアの実践に取り組む職員の姿に、今後も期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームなかよし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、誰でも目に付く場所に掲示し、理念の実践に向け日々取り組んでいる。	ホームでは理念を玄関に掲示することで職員への周知を図っている。新たに入職した職員には理念について説明を行い理解を図るとともに、理念に基づいたケアの実践に全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祐和会・幸和会で、夏祭り・クリスマス会等に地域の方の参加を呼びかけ、参加してもらっている。	地域自治会への加入は行っていないが、法人全体で行う夏祭りやクリスマス会の際には近隣住民や入居者家族へ参加があるほか、地元中学生の福祉体験学習の受け入れを行うなど、地域と交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、毎回活動報告や取り組みについても意見をもらい、サービス向上に努めている。	運営推進会議は隣接する系列グループホームと合同で開催しており、行政担当者・家族代表などの参加がある。会議では参加者より意見を伺い、ホーム運営に活かすよう努めている。議事録については利用料請求書とともに家族へ配布し、内容を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、地域の情報や助言をもらっている。	行政担当者の運営推進会議への参加もあり、日頃より地域の情報や助言を得るなど連携を取ることができている。但し、職員が不足していることもあり、市主催の研修会等には参加ができていない状況にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に努めている。	訪問調査時現在、ホームに身体拘束該当者はいないが、ホームでは系列グループホームに対象者がいることから、拘束排除に向けた会議にホームからも参加し情報共有に努めている。職員はそこで得た情報をもとに身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	系列グループホームでの身体拘束排除に向けた会議に参加し情報共有を図っていることだが、記録の整備について課題が窺われる。また、身体拘束適正化委員会に関してもホーム内での明確な位置付けが望まれる。現在、身体拘束適正化委員会での検討内容を全職員に周知することが求められているため、議事録の整備並びに議事内容の職員周知が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	病院全体で勉強会を年1回開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様がいれば、活用出来るよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書・契約書など、一緒に見ながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞き、日々のケアに活かせるように心がけている。	職員は家族からの意見や要望について、運営推進会議や面会の際に何うよう心掛けています。入居者の家族より本人に字を書かせて欲しいとの希望があった際には書字訓練を取り入れる工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・要望がある時、その都度聞き、必要であれば全体で解決するようにしている。	管理者は日々の業務の中で職員の意見を聞くよう努めており、必要に応じて全体で話し合い、解決できるよう取り組んでいる。また、職員の資格取得についても勤務を調整するなど対応し、支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各行事ごとに担当を決め、責任感ややりがいを持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を日程が合えば受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、交流する機会ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様が安心して生活できるよう雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、不安・要望など聞き、安心して過ごせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば、リハビリ・デイケア・デイサービスの利用ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者・職員と同じ空間で、穏やかに過ごせるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回のお便りにて、近況報告をしている。また、状態が悪化した時は、その都度報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や知人等、気軽に訪問できるように心がけている。	ホームに入居者の知人の方の訪問があることで、職員は気軽に来てもらえるよう心掛けている。現在人手が不足していることからお彼岸の時期などに行っていた入居者の自宅を回る支援が行えていないが、今年度2名の入職があり、以前のような支援実現に向けて検討しており、体制を整えているところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人に合わせ、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所になる事が多い。退所後も病院より経過を伝えてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向を聴取し、把握している。	職員は日々のケアや会話を通して入居者一人ひとりの意向を確認し、生活歴と照らし合わせながら本人の希望に沿った暮らしの実現に向け取り組んでいる。また、家族面会時に状態報告を行った際に意向や要望を伺うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を聴取し、今までの暮らしを継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活や心身状態を把握し、スタッフ間で情報交換し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族様と面談し、希望や課題を含め計画を立て、検討したケアをチームで行っている。	ホームでは概ね3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画は担当職員並びに計画作成担当者が入居者本人・家族の意向を確認した上で、本人の現状に沿った計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌に気づきやケア内容を書き、スタッフ間で情報を共有、統一したケアを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族様の状況に合わせ、柔軟に対応している。ケースにより病院と連携し、対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問あり。何かあれば、派出所に連絡するようにし、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、急変時の受診を行っている。随時、家族様に報告し、必要に応じて主治医と家族様の面談を行っている。	ホームでは入居者のかかりつけ医を協力医療機関に限定せず、入居者本人・家族の希望に沿って対応している。他医療機関への定期受診については家族へ依頼しており、職員は受診後の情報交換を密に行うことで入居者の状態把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を常に把握し、病変に応じ病院へ連絡し受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、病棟との連携が取れており、情報交換も十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の話を家族様としており、実際に重度化したときは、主治医と本人・家族様と面談し方針を検討している。	入居者の重度化に対してホームにて可能な限り対応しているが、協力医療機関が隣接していることもあり、最終的には入院を希望する家族が多い現状にある。管理者は今後家族より看取りの希望があればホームで対応できるよう体制づくりを検討する意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院より急変時・事故発生時などの参考資料や施設の緊急時対応マニュアルがあるので読んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災の避難訓練は、年2～3回行っている。年1回は、消防署立ち合いのもと、訓練を行っている。町内の婦人防火隊の参加も時々呼びかけて、参加してもらっている。	ホームは隣接する系列グループホームとの入居者参加型での消防避難訓練や自主訓練に加え、法人全体での訓練にも参加するとともに、職員の役割分担についても勤務帯に応じて対応できるよう整備し有事の場合に備えている。今年度は地域の婦人防火隊の参加もあり、地域との協力体制も確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、性格・個性の違いもあるため、それぞれに合わせた対応に心がけている。	職員は入居者の意向を尊重し、排泄や入浴など同性での介助にも対応している。また、共有スペースでの排泄の失敗などの際には周りの方に気付かれないよう配慮し、その方の誇りや尊厳を損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を優先し、助言と自己決定できるような声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、希望に合った過ごし方を提供し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に保つよう、毎日の洗面・口腔ケア・整髪などの支援または、介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせた食事づくりを心がけ、楽しんで食事ができるよう心掛けている。	ホームでは入居者のできる範囲で野菜の皮むきや食器拭きなどを職員と一緒にを行い、その方の残存能力が活かせるよう支援している。また、おはぎやおせちづくりを一緒に行うことで、食事を通して季節が感じられるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあった、食べやすさや飲み込みやすさを考慮し、食事提供を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取パットを使用し、オムツの使用を減らし、時間の間隔を見てトイレ誘導をしている。	職員は排泄チェック表を活用して入居者個々の排泄パターンを把握し、状態を見ながら声掛けや誘導を行うことでオムツの使用が減らせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・植物繊維の多い食材を食事に取り入れたり、水分補給を行ったりして工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望されるか伺って誘導している。その日の体調に合わせ、無理なく喜んで入浴できるよう声かけしている。	ホームでは毎日浴槽に湯を張って入浴ができるよう準備しており、入居者の希望に応じて毎日入浴することも可能である。職員は入居者の体調に合わせて希望を伺い、無理なく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、レクリエーションなどで覚醒できるように努め、昼食後に身体を休めて頂くために、午睡時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より説明を受け、確認している。名前・日付け・朝・昼・夕を必ず確認し服用させている。1回分を手渡したり、服薬介助し飲み込みの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活力ある日々を送って頂くために、楽しい会話を心がけ、レクリエーションなどで明るく過ごせるよう取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外での催し物への参加や屋外への散歩など行っている。本人様の希望があれば、ご家族様へ連絡し外出を可能にしている。	職員は入居者とともに気候の良い時にはホーム周辺を散歩するなどし、気分転換を図っている。また、今年度は2名の入職があったことから、以前行っていた近所のスーパーへの買物を兼ねた散歩を再開できるよう調整しているところである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり、手紙を出すなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節や行事に合った飾り物や花・観葉植物など置き、家庭的な雰囲気を出すよう心掛けている。	ホーム共用空間にある大きな窓からは光を多く取り込むことができるほか、道に面していることから入居者と近くを通る園児で手を振り合い楽しむ様子が窺える。また、毎日職員が交代で掃除機掛けやモップ掛けを行い、清潔な空間を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、外にはベンチを置き居場所づくりに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に応じた居室づくりを心がけている。	居室は共用空間同様職員による毎日の掃除機掛け及びモップ掛けにて清潔に保たれている。室内には入居者馴染みの物を持ち込んでもらうことで快適な生活が送れるよう配慮している。また、居室入り口にはその方の顔写真を飾るなど、自室であることが分かるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に、利用者様の顔写真を飾ったりトイレの入り口がわかるように工夫している。		